

環境経営レポート

2023 年度

(対象期間: 2022 年11月1日～ 2023 年10月31日)



認証番号 0013691

作成日: 2023年11月10日
更新日: 2023年11月30日

目 次

項 目	ページ
ごあいさつ	3
環境経営方針	3
組織の概要	4
事業・製品の紹介	4
環境経営組織図及び役割・責任・権限表	5
主な環境負荷の実績	6
環境経営目標及びその実績	6
環境経営計画の取組結果とその評価	6～7
環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果, 並びに違反, 訴訟等の有無	8
緊急事態対応訓練	8
代表者による全体の評価と見直し・指示	9
これまでの環境活動の紹介	9

経営理念

品質

Quality

私たちは培ってきた技術と新しい発想を融合し、
お客様の満足を中心とする
プロフェッショナルを目指します。

挑戦

Challenge

私たちはアイデアや発想を持ち
新製品の開発を行うと共に
改善と改革を迫ります。

未来

Future

私たちは誠実である仲間とともに切磋琢磨し
明るい豊かな未来にする為に進んでいきます。

ごあいさつ

株式会社浅田鉄工は1960年（昭和35年）にもものづくりの町、東大阪市にて創業致しました。以来一貫して金属加工の道を歩み続け切断、孔明、曲げをはじめ鉄・ステンレス・アルミ製品などの溶接の対応をまいりました。1991年（平成3年）に設備増強の為、第二工場設立。2009年（平成21年）にはレーザー部門新設の為、第三工場を設立。そして生産増強拡充及び合理化を計るために本社・第二工場・第三工場を統合し2013年（平成25年）に現住所へ移転して参りました。創業以来60有余年。より良い製品を提供することを通じて地域社会に貢献したいと考えております。今後ともなおいっそうのご指導、ご鞭撻、ご支援をお願い申し上げます。

株式会社浅田鉄工
代表取締役 浅田英明

環境経営方針

環境経営理念

当社は創業以来60有余年、東大阪の地で邁進してまいりました。本業である各種鋼材の設計・製作・施工を通じて地球温暖化問題への取り組みや地域の環境活動に積極的に取り組みます。近年社会問題視されている自然環境保護に配慮した行動を社員ひとり一人が自覚をもって実践し継続的な改善活動を行い、より良い未来を築くよう挑戦してまいります。

環境保全への行動指針

1. 環境に配慮した施工計画及び使用材料に関わる活動を推進します。
2. 環境保護のため、省資源・省エネルギー・リサイクル活動を推進します。
3. 経営における課題とチャンスとを踏まえエコアクション21に取り組んでまいります。
 - ①使用エネルギーを低減する事でCO₂の排出量を削減します。
 - ②廃棄物の削減・再使用・再生利用を推進します。
 - ③水の使用量を削減します。
 - ④積極的に3M(ムリ・ムダ・ムラ)を推進し環境保全に努めます。
 - ⑤環境配慮活動を考慮し全社で取り組む活動を行います。
4. 該当する法規等を明確化し遵守します。
5. 取り組み目標計画表を作成し進捗状況を全員が把握できる様に努めます。
6. 全従業員に今回の取り組みを周知徹底する為に環境に対する教育を行い環境保全の意識及び能力の向上に努めます。

※ 環境コミュニケーションの積極的な実施を進めるために環境経営活動レポートを自社の機関紙【浅田鉄工通信】に添付し従業員に周知徹底します。

制定日：2021年6月25日
改定日：2022年12月22日

代表取締役
浅田 英明



組 織 の 概 要

(1) 名称及び代表者名

株式会社浅田鉄工
代表取締役社長 浅田英明

(2) 所在地及び対象範囲

本 社 大阪府東大阪市川俣一丁目十九番二十六号

(3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

責任者	製造部長	下中 一史	TEL : 06-6782-7078
担当者	人事部	三木 弘子	TEL : 06-6782-7078

(4) 事業内容

各種鋼材を用いた設計・製作・施工及び販売全般の事業活動

(5) 事業の規模

売上高	52,962 万円
	本 社
従業員	名 29 名
延べ床面積	m ² 1581.73 m ²

(6) 事業年度

11 月 1 日 ~ 10 月 30 日

□認証・登録の対象組織・活動

登録組織名：株式会社浅田鉄工
対象事業所：本 社
活動：板金・溶接の金属加工（電車線金具等）及び配線ダクト等の設計・製作・販売

□事業や製品(商品)の紹介

主事業及び製品紹介

多品種少ロット生産を得意としており、手作業による加工も多く存在します。そのため作業者の練度が高く、オーダーメイド感覚でご依頼いただけます。構造が複雑などの理由により他社で断られた製品についても製作させていただきます。またお客様より図面をご用意いただけない場合も、当社が詳細をヒアリングし設計致します。発注 → 製図 → 製作 → 検査 → 納品までをシームレスに行います。

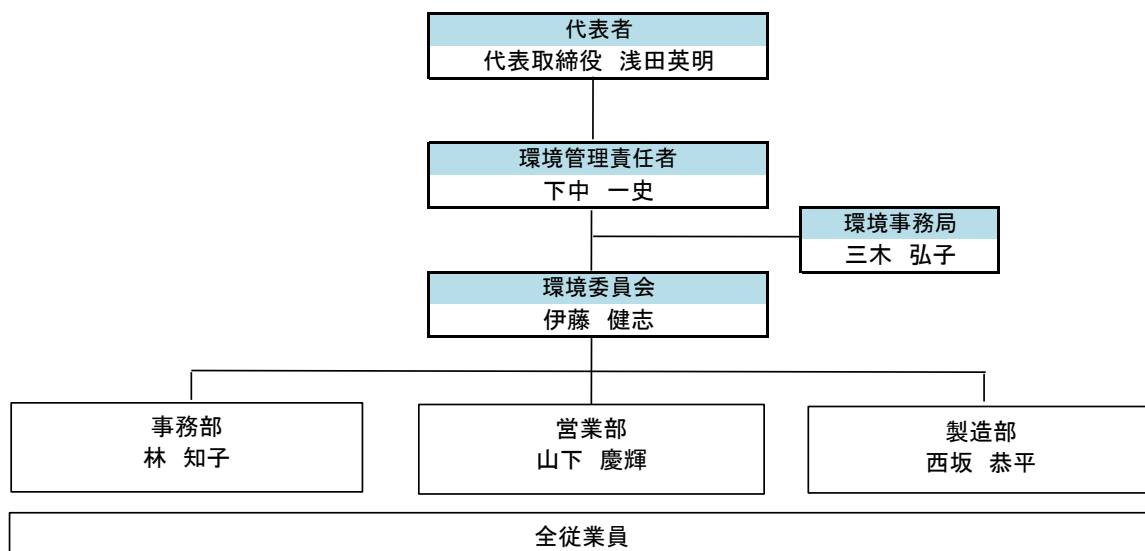
<主な製品加工>

・配線ケーブルダクト ・製缶 ・パイプ加工 ・板金 ・溶接 ・レーザー加工 ・ショットブラスト ・各種製品組立 等



環境経営組織及び役割・責任・権限

更新日：2023年7月14日



	役割・責任・権限
代表者 (代表取締役) 浅田 英明	・環境経営に関する統括責任 ・環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間等経営資源を準備 ・環境経営方針の策定・見直し ・環境経営目標・環境経営計画書を承認 ・代表者による全体の評価と見直し、指示 ・環境経営レポートの承認 ・経営における課題とチャンスの明確化
環境管理責任者 下中 一史	・環境経営システムの構築、実施、管理 ・環境関連法規等の取りまとめ表を承認 ・環境経営目標・環境経営計画書を確認 ・環境活動の取組結果を代表者へ報告 ・環境経営レポートの製作責任者
環境事務局 三木 弘子	・環境管理責任者の補佐 ・環境負荷の自己チェック及び環境への取組の自己チェックの実施 ・環境経営目標、環境経営計画書原案の作成 ・環境活動の実績集計 ・環境関連文書、教育、訓練計画、実施、記録作成と保管 ・緊急事態への対応の為の手順書作成 ・環境経営レポートの作成、公開(事務所に備え付けと地域事務局への送付)
環境委員会 伊藤 健志	・環境管理責任者の補佐 ・環境負荷の自己チェック及び環境への取組の自己チェックの実施 ・環境経営目標、環境経営計画書原案の作成 ・環境関連文書、教育、訓練計画、実施、記録作成補佐 ・環境経営レポートの作成補佐 ・環境経営方針の各部門への周知確認
部門責任者 事務部・林知子 営業部・山下慶輝 製造部・西坂恭平	・自部門における環境経営方針の周知 ・自部門の従業員に対する教育訓練の実施 ・自部門に関連する環境活動計画の実施及び達成状況の報告 ・自部門に必要な手順書の作成及び手順書による実施 ・自部門の想定される事故及び緊急事態への対応のための手順書作成 ・試行・訓練を実施、記録の作成 ・自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施
全従業員	・環境方針の理解と環境への取組の重要性を自覚 ・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

主な環境負荷の実績

項 目	単位	2021年	2022年	2023年
二酸化炭素総排出量	kg-CO ₂	111,121	118,851	127,548
廃棄物排出量				
一般廃棄物排出量	Kg	4,220	3,915	4,132
産業廃棄物排出量	kg	235	390	385
水使用量	m ³	497	518	450
		0.484	0.484	0.484

kg-CO₂/kWh

※電力の二酸化炭素排出係数は、日本テクノ(株)2021年度CO₂排出係数(調整後排出係数): 0.484kg-CO₂/kWhを使用。

※二酸化炭素排出量には、環境目標にはないLPGを含む

環境経営目標及びその実績

□環境経営目標及びその実績

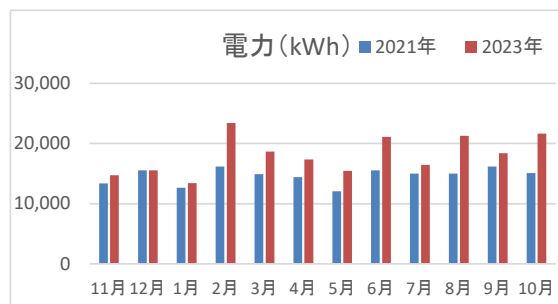
年 度 項 目		2021年(基準年)	2023年		評 価	2024年	2025年
		基準値	(目標)	(実績)		(目標)	(目標)
電力による二酸化炭素削減	kg-CO ₂	84,975	82,995	105,215	×	82,145	81,295
	基準年度比	2021年	97.67%	126.77%		96.67%	95.67%
	原単位	kWh/千円	0.433	0.423	○	0.418	0.414
自動車燃料による二酸化炭素削減	kg-CO ₂	22,450	21,926	21,972	×	21,702	21,477
	基準年度比	2021年	97.67%	100.20%		96.67%	95.67%
上記二酸化炭素排出量合計		kg-CO ₂	107,424	104,881		103,847	102,773
一般廃棄物の削減	kg	4,220	4,079	4,132	×	4,079	4,037
	基準年度比	2021年	96.67%	101.29%		96.67%	95.67%
水道水の削減	m ³	497	485	450	○	480	475
	基準年度比	2021年	98%	92.78%		97%	96%
環境に配慮した製品・サービス及び課題を解決しチャンスを活かす取り組み		(次項による)					

環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の計画

数値目標: ○達成 ×未達成

活動: ◎よくできた ○まあまあできた △あまりできなかった ×全くできなかった

電力による二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	×	-数値未達- 通年で数値未達となった。左記のこまめな節電に関しては全社員で実施。未達の一歩の要因はやはり機械の稼働時間が今年度は圧倒的に多かった事。特に夏場は溶接や機械加工時、熱気を排出する為の電力も必要となる為、デマンドで意識するものなかなか節電につなげることが出来なかった。工場については蛍光灯がまだ設置されているため来期に向けて徐々にLEDに移行できるように取り組むこととする。
原単位目標	○	
・空調温度の適正化(冷房28℃ 暖房20℃)	○	
・空調を必要な区域や時間に限定して使用	○	
・デマンド監視を実施している	○	
・プリンターのトナーカートリッジのリサイクル化	○	
・使用頻度が低い場所の照明は使用時のみ点灯	○	



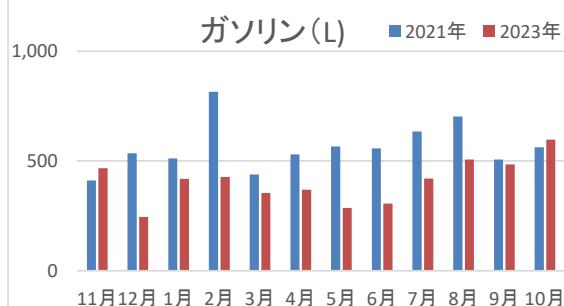
取組紹介欄

電力による二酸化炭素削減の起爆剤としてファイバーレーザー加工機取得へ。6月に補助金採択済。2023年度中の導入にむけてソフト面とオペレーティング面の講習を受講中



	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
2021年	13,358	15,532	12,667	16,174	14,900	14,406	12,054	15,546	14,998	14,998	16,196	15,100
2023年	14,710	15,564	13,423	23,412	18,664	17,330	15,440	21,087	16,461	21,273	18,376	21,647

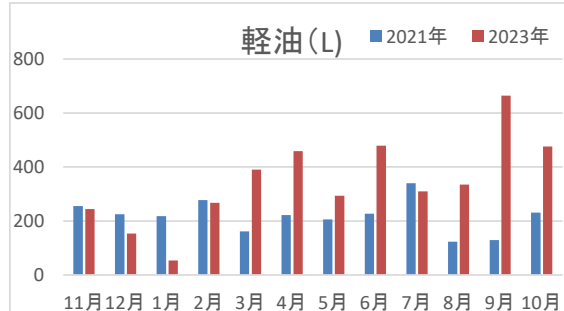
自動車燃料による二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	×	各担当のスケジュールを共有し効率的な配送・現場調査を心掛けました。2023年は大型製品の受注がおおく製作中にリフトで頻繁に移動が必要となった。今後工場内の動線を考え無駄な移動を少しでも減らしていく事を目標とします。
・アイドリングストップ	○	
・効率的なルートで配送	○	
・効率的なルートで現場調査	○	



取組紹介欄

スケジュールの共有

	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
2021年	411	535	511	816	438	530	566	557	635	703	506	562
2023年	467	246	419	427	355	369	287	307	420	507	485	597

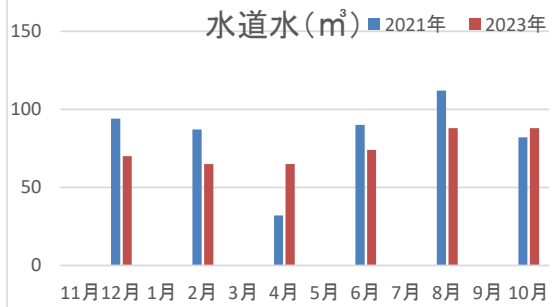


取組紹介欄

4tトラックでの自社便配達 スケジュール調整

	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
2021年	255	225	218	277	161	222	206	227	340	123	129	231
2023年	244	154	53	267	390	459	293	479	309	335	664	476

水道水の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	目標達成 節水の意識が根付き結果につながっていると思います。
・ 節水シールの貼り付け	○	製品を洗浄する際、水道水のシャワーヘッドではなく節水効果のある高圧洗浄機を使用するようにしたのも数字に表れている。
・ 手洗い時、洗い物時の節水の励行	△	今年の12月に設置予定のファイバーレーザー加工機は水冷式ではなくなる為、更に効果が出ると期待しています。
・ 製品洗浄時、高圧洗浄機の使用	△	



取組紹介欄

通年、こまめな閉栓を実施
今年度末に導入するファイバーレーザー加工機には従来の水冷タンクが不要の為、使用量は減少する予定

水道局の指摘もあり水道管に破損がないかなど
老朽化の進む設備の点検を実施



	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
2021年	0	94	0	87	0	32	0	90	0	112	0	82
2023年	0	70	0	65	0	65	0	74	0	88	0	88

環境に配慮した製品・サービスへの取り組み	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
・ 不良品発生率の低下	○	新入社員も含め品質の向上につながる会議を月に1回開催。参加者は現場に戻りチームに共有する事でPDCAを促進出来ていると思います。会議の内容がマンネリにならないように引き続き指導するものとする。
・ 前工程検査の徹底	○	
・ 無駄のない材料取り	○	
・ 全体朝礼での唱和	○	

取組紹介欄

不良品発生率を毎月全員で共有
2023年度は前年に比べ受注件数は10%増加
不良品発生については前年より2件増加にとどまり
取り組みの成果が数値で確認できた。
今後の課題は不良品が発生した原因が図面確認時の思い込みが繰り返り発生しているため、類似品の製作前に都度の確認を徹底するものとする。

環境に配慮した製品・サービスへの取り組み

不良品発生率の低下 推移

	(件)		前年度同月比 クレーム数
	2022年 受注件数	2023年 受注件数	
11月	312	335	4
12月	327	269	6
1月	216	250	1
2月	271	285	2
3月	262	288	-8
4月	255	235	2
5月	233	257	12
6月	211	320	-3
7月	252	291	-1
8月	213	247	1
9月	241	280	-7
10月	241	290	-7
合計	3034	3347	2



課題を解決しチャンスを活かす取組	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
・ ワンオペ部門の人財育成	△	新入社員も含め品質の向上につながる会議を月に1回開催。参加者は現場に戻りチームに共有する事でPDCAを促進出来ていると思います。会議の内容がマンネリにならないように引き続き指導するものとする。
・ 技術の継承	○	
・ 新しい機械の情報収集	△	

環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、 並びに違反、訴訟の有無

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りです。

適用	適用される事項（施設・物質・事業活動等）
廃棄物処理法	一般廃棄物及び産業廃棄物（リサイクル可能な有価物）の保管・排出 産業廃棄物（廃プラスチック類、紙くず、繊維くず、木くず、ごみくず等）
騒音規制法	空気圧縮機、送風機の設置
振動規制法	空気圧縮機の設置
フロン排出抑制法	業務用空調機の設置

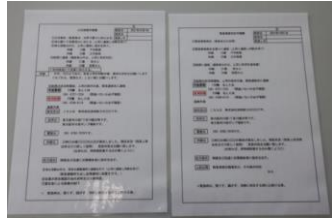
環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていました。

なお、違反、訴訟等も過去3年間ありませんでした。

□外部からの環境上の苦情・要望等

2022年11月～2023年10月 1年間の運用活動については近隣苦情等は発生しませんでした

緊急事態対応の試行・訓練

緊急事態の想定： 火災の発生	
■実施日： 2023/4/22(土)	■実施場所 本社入口及び会議室
■参加者： 環境管理責任者：下中 防火責任者：坂本 訓練：社員全員	
■実施内容： ☒ 通報訓練 ☒ 消火訓練 ☒ 避難訓練	
■評価： 手順通り問題なく実施	手順書の変更の必要性 ☐ あり ☒ なし
■実施状況の様子	
  	



代表者による全体の評価と見直し・指示



実施日：2023年10月31日

【前回の指示への取組結果】		
＜指示＞ ・フォークリフト 作業工程の明確化 - 動線の表示・ヘルメット着用の徹底 ・産業廃棄物の教育		＜取組結果＞ ■フォークリフトの動線表示については製作時・完成品の場所が定位置でないため現状未表示となる。■ヘルメット着用に関してはフォークリフトに注意喚起表示 ■産業廃棄物に関しては廃棄場所を移動するとともに廃棄方法を全社員に周知徹底
＜情 報＞ 長期にわたる物価高騰により製品への価格転化が重要な課題となっています。持続的な環境への配慮をしつつ経営をすることは難しい問題ではあるが目標値を意識し引き続き取り組む必要がある。		＜見直し・指示＞ ◇環境経営方針 業種的に電気による二酸化炭素排出削減が非常に難しいことが2021年より開始したこの取り組みによって数値で認識する事ができた。引き続き節電を意識するとともに機械のメンテナンスをしっかりとし無駄で過剰な電力使用を抑制する事を課題とする。また来期に向けては新しい設備を随時導入予定である為、従来の機械に比べ節電効果は見込めると想定。しっかりと数値で追跡するように指示。

環境経営方針	☒ 変更なし	☐ 変更あり
環境経営目標・計画	☒ 変更なし	☐ 変更あり
実施体制他	☒ 変更なし	☐ 変更あり

これまでの環境活動の紹介



昨年より始めた緑化活動。今年は当社事務所棟玄関にも大きな鉢植えを 増やすことが出来ました。昨年植えたアジサイも無事花を咲かせています。また近隣の雑草が生い茂っていたため有志にて雑草抜きを行いました。



ペットボトルのゴミ削減に向けて

6月～10月頃にかけて社内で麦茶・緑茶を沸かし各階に設置。熱中症対策とペットボトルのゴミ削減が同時に行えます。



各自名前を書いたマイコップがあります